

私自身の宗教的確信

東本願寺ロサンゼルス別院開教係

フレドリック・ブレニオン

まずは、この記事を、私の友人であり、師であり、上司であり、そして輪番であり監督でもある伊東憲昭師に感謝の気持ちを込めて捧げたいと思います。私を大谷派僧侶として得度させてくださり、同朋のみなさんと共に聞法する機会を与えてくださったこと、心より感謝しています。伊東輪番は、私というガラクタの中に少しでも金を見てくださいったのかもしれないが、正直なところ、それは愚か者の金だったかもしれない。それでも、信頼と励ましをくださったことに心から感謝しています。

仏教に初めて触れる多くの方々は、禅や上座部仏教、チベット仏教を選びます。浄土真宗は「なかなか魅力を伝えにくい宗派」と言われることもあります。でも、私には浄土真宗の教えが響きました。真宗は、私に「自分が何者か」を見せてくれます。そして、考えすぎたり、不安でがざわつく心を静める道を与えてくれます。それに初めて気づいたのは、ある物語を通してでした。私は物語が好きです。物語はこれからも私を形成し続けていくでしょう。物語の中に入り込み、その世界に生きるよ

うに感じるのが好きです。そこに入り込むことで、この現実世界と自分自身を、より明確に見ることができます。親鸞聖人も、『大無量寿経』を自分の世界の中心に据えられたとき、きつと同じことを感じられたのではないのでしょうか。曾我量深先生や金子大栄先生も、同じ理解に立っておられると思います。私たちは、自分の中に法蔵菩薩を生み、その物語を心の中で生きる必要があるのだと思います。大經の偉大な物語には、本願力と出会う場面があります。

その力によって、主人公である法蔵菩薩は願いを成し遂げ、阿弥陀仏となられます。この物語は、実は私たち自身の物語でもあります。阿弥陀仏が表す仏性は、私たちも生き、表現できるよう変わっていくための道しるべです。そこで私たちに問われるのは、「あなたの浄土には何があるのか？」ということだと思います。その答えは、あなた自身の物語です。最後に阿難が「この後、どうなるのですか？」と尋ねます。

その答えは、法蔵菩薩は無限の慈悲と智慧のあらわれであり、大乘仏教の核心である阿弥陀仏そのものである、ということだと思います。私たちは皆仏になろうと歩んでいます。仏になるとは、阿弥陀仏のようになるということです。これ以上のハッピーエンドがあるのでしょうか。私はよく言葉に感動してしましますが、最終的には仏さまからの隔てない慈悲に行き着くのだと思います。この物語は、生きる物語です。本願を生きることで、私たちはその物語を生きます。やるべきことは、真剣に助けを求めることただひとつです。阿弥陀仏の名を呼び、その大慈悲に抱かれることだけです。とてもシンプルです。ですが、七十歳を超えた私にとっても、それだけで圧倒される思いです。親鸞聖人は繰り返しこう言われました。『歎異抄』の一節が特に心に残っています。「火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたはごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにしておはします」そしてもうひとつ、「ただ念仏して、弥陀に助けられまいらすべし。」ここまで来て、私はようやく基盤に辿り着きました。ここから築いていくしかありません。けれど私のひねくれた心はすぐに頭で考え、理解しようとし、判断しようとし、しかし、親鸞聖人は阿弥陀仏の慈悲に触れられる者は「その身心柔にして」と言われます。私の心はま

だ固く、柔らかくするには下ごしらえが必要で、その下ごしらえこそが、この無常の世界に出会うことだと思えます。この現実が、念仏こそが真実ということを明らかにしてくれます。この迷いと苦しみに満ちた娑婆の世界は、私に本当に必要でありながら欠けているもの、つまり智慧と慈悲を指し示しています。

「南無阿弥陀仏」と称えることは、限りなき智慧と無量の慈悲の目覚めに、私もまた入らせていただかねばならないという気づきの叫びです。

念仏は不思議なものです。よく「指を見ずに、指の先にある月を見よ」と言いますが、念仏は指でも月を指す道具でもなく、まさにその月そのものが私とあなたに与えられているようなものです。念仏を称えることは、念仏を受け取ることは、慈悲と智慧を求めることは、それを受け取る

こと。求めることで智慧をいただき、受け取ることで慈悲を知る。自力では何もできませんが、私の足りないものに応じて必ず届くのです。坂東性純先生はこう書かれています。

「真実の仏とその国土（涅槃）は“不可思議”であるが、それは謎という意味ではない。むしろ、悟りの眼から見ると、これ以上なく明らかで自明なもの。不可思議とは、人間の限られた概念では捉えられないほど明らかな現実であるということだ。」

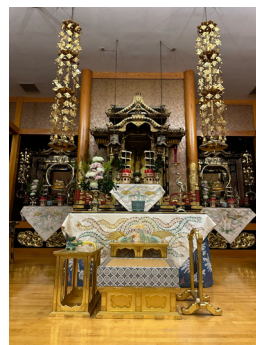
そして最後に「信心」です。これは簡単には説明できない言葉です。なぜなら阿弥陀仏そのものが定義できない存在だから。無限とはそういうこととです。もし辞書に阿弥陀仏と書くなら、その項目は空白にしておくしかないでしょう。阿弥陀仏は、隔ても限りもなく、どんな人でも受け入れて

くださるからです。それでも、「信心」という言葉は、ここにあるんです。

私が思うに、信心というのは、自分から求めて手に入るものじゃなく、ふとした瞬間に向こうからやってきてくれるものなんじゃないでしょうか。

私が「これが信心かもしれない」と感じたのは、本堂で阿弥陀仏を見上げながら、他の僧侶たちやサンガの皆さまと正信偈をお勤めし、一緒に声を合わせてくださったっていったときでした。私は阿弥陀仏を自分の最大の関心として見つめていました。けれども、実は阿弥陀仏のほうが、私を最大の関心としてくださったってあることにふと気づいたのです。私をこのまま受け止めようとする本願力が、まっすぐに届いてきたのです。その時、私の固い心は柔らかくなった気がしました。その時

これが信心なのか、正直わかりません。もしかしたら一生わからないかもしれません。でも、私は抱かれています。それ以上、何を望むことがあてようか。



別院より

お盆祭り二〇二五

二〇二五年のお盆祭りも無事終了し、また新たな素晴らしい思い出となりました。

御門徒の皆さま、そしてご家族やご友人の皆さまには、ボランティアとして大きなお力添えをいただき、本当にありがとうございました。

今年は、伊東輪番が輪番として迎える最後のお

盆祭りとなり、まさに記憶に残るものとなりました。

涼しい気候、美しく整えられた境内、素晴らしいお盆のエンターテインメント、厳かな法要、おいしい食べ物・デザート・焼き菓子・飲み物、きれいなお花や植物、新鮮な野菜、そして子どもから大人まで楽しめるゲームやアクティビティが揃いました。

たくさん吊るされた万灯会の提灯には、ご先祖や大切な方々への感謝の気持ちがこめられました。大切な方々との思い出の下、多くの方々と一緒に踊り、素晴らしいひとときとなりました。駐車場も、ソーシャルホールも、大勢の人でいっぱいでした。

昨年の記事では、お名前を挙げそびれてしまった方が何人もいらっしゃいました。今年はあえてお名前を挙げません。ですが、皆さま、ご自



深い感謝を込めて、
お盆祭り共同委員長
村田ステイブ
原田 イレイン

分のことはお分かりですよね！
皆さまのおかげで本年のお盆祭りも大成功となりました。
これまでの、そしてこれからのご尽力に、この場をお借りしてお礼申し上げます。
来年も、また絵に描いたような素晴らしいお盆祭りでお会いしましょう！



創立百二十周年記念 資金のご報告

百二十周年記念ファン
ドレイジングにあたり、
皆さまからいただいたご
寄付や温かいご支援に心
より感謝申し上げます。
おかげさまで、この数か
月の間にお寺のさまざま
な改善を行うことができ
ました。

まず、本堂に新しく大
型モニターを二台設置し
ました。
日曜礼拝やお葬儀な
ど、本堂で行われるさま
ざまな行事で、映像やス
ライドを映すのに活用し
ています。

日曜礼拝では、フェイ
スブックで配信している
映像と同じものを映し出
し、本堂にてご参拝され
る皆さまにも、より見や
すい形でお届けできるよ
うになりました。また、
直接お越しいただけない
講師の映像や、各種スラ
イド・動画などもご覧い

ただけます。

六月には、駐車場の舗
装工事を行いました。長
年の使用で舗装にはひ
び割れが生じ、引かれた
線が見えにくくなってい
ましたが、このたび全面
的に修理・再舗装・ライ
ン引きを行い、お盆祭り
前に整備することができ
ました。今では線もはつ
きりし、舗装も新しくな
り、気持ちよくご利用い
ただけます。

お寺も建立から五十年
以上が経ち、建物の老朽
化が進む中で、これから
もさまざまな課題に向き
合っていく必要があります。
これからの、次世代
のためにより良いお寺を
残していけるよう、皆さ
まの温かいご支援を心よ
りお願い申し上げます。



秋季彼岸法要

秋季彼岸法要が九月十四日(日)午前十時より勤まります。ご講師には、新しく輪番としてお迎えする河和田賢淳師をお招きします。なお、今年の秋季セミナーは、ご講師に宮地崇師をお迎えし、十一月二十三日(日)に開催されます。お彼岸は年に二回、春分と秋分の時期に勤まります。気候が最も穏やかで理想的なこの時期に、ぜひ一緒に仏法を聴聞しましょう。ご友人やご家族をお誘い合わせの上、ぜひご参拝ください。



伊東憲昭輪番

五十年の御奉職を持って御引退

ロサンゼルス東本願寺では、五十年にわたりご奉職された伊東憲昭輪番のご引退をお祝いし、その歩みをたたえます。

伊東輪番は一九四八年九月、熊本県にて、父・伊東抱龍師、母・壽子様の長男としてお生まれになりました。その後、伊東抱龍師がロサンゼルス東本願寺の輪番としてお勤めされていたご縁により、ボイルハイツに移られました。ロサンゼルスのおクシデンタル大学を卒業後、日本・京都の大谷大学にて仏教を学ばれ、得度・教師資格を経て、一九七五年九月よりロサンゼルス東本願寺の駐在開教使として奉職されました。

一九八八年には、ウエストコビナ東本願寺の駐在開教使として転任。

一九八八年にロサンゼルス東本願寺の輪番に就任されました。さらに二〇一一年には、輪番を兼務しながら北米開教区の開教監督に任ぜられました。

長年にわたり、日系アメリカ人社会、仏教界、諸宗派との交流など、リトルトーキョーのさまざまな地域・宗教団体で活動され、多くのご縁を結ばれてこられました。

このたび、伊東輪番から河和田輪番への輪番交代式ならびに、伊東憲昭輪番ご引退記念祝賀会を、二〇二五年九月二十八日(日)に執り行います。なお、祝賀会ご参加の方は、八月二十八日までにお申し込みをお願いいたします。皆さまとともに、この意義深い日をお祝いできることを楽しみにしております。

ます。

河和田賢淳新輪番

就任のお知らせ

このたび、伊東憲昭輪番のご引退に伴い、河和田賢淳師がロサンゼルス東本願寺の輪番、および北米開教区の開教監督に就任されます。輪番交代式は、二〇二五年九月二十八日(日)午前十時より勤まります。

河和田輪番は、一九八四年からロサンゼルス別院にて開教使としてご奉職され、その後一九八八年よりウエストコビナ東本願寺の駐在開教使を務められました。二〇一二年からは、ハワイ別院にて輪番およびハワイ開教区開教監督としてお勤めされています。

かつてロサンゼルス別院で共に過ごされた方も多いことでしょう。このたび、奥様ジーンさんとともにロサンゼルスのご縁に帰って来られる河和田輪番を、皆さまと共に

温かくお迎えいたしますよう。

行事予定

九月

一日 レーバー・デー
七日 九月祥月法要
十四日 秋季彼岸法要
二十一日 日曜礼拝
二十八日 ロサンゼルス別院輪番交代式・伊東輪番引退記念祝賀会

同朋のお悔み



安田章一郎ヘンリー様
六月二十九日 御命終
行年九十六歳

最所裕子様
七月五日 御命終
行年九十一歳

平原優子シェリー様
七月二十六日 御命終
行年五十六歳

謹んで哀悼の意を表します。